

生物多様性とアーバンフォレスト

会長 上杉哲郎



生物多様性条約(CBD)は、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)とともに、1992年の国連環境と開発に関する国際会議(UNCED、地球サミット)の際に採択された双子の条約である。いまや、気候変動は国際政治の大きな議題で、UNFCCCの第27回締約国会議(COP27)はマスコミで大きく取り上げられ、カーボンニュートラルは我が国をはじめ世界の多数の国の公約目標となっている。一方、生物多様性は、いまだ知名度が低く、新たな国際目標が採択されるというのに、COP15はさほど注目を集めなかった。同じ年に採択されていてUNFCCCはCOP27、CBDはCOP15と差があるのは、締約国会議が毎年開催か隔年開催かの違いである。

2010年10月には、愛知県名古屋市でCBD/COP10が開催され、2010年から2020年までの世界目標である「愛知目標」が採択された。それを引き継ぐポスト2020年目標は、2020年の中国・昆明で開催されるCOP15で採択される予定だったが、新型コロナの感染拡大により延期され、2021年10月にCOP15第1部が開催されたものの世界目標の採択には至らなかった。そして、2022年12月7日から19日までの日程でCOP15第2部が条約事務局のあるカナダ・モントリオールで開催されたのである(議長国は引き続き中国)。COP15第2部では、2030年までの世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)」を採択した。GBFでは、「生態系の損失を止めて回復に向かわせる緊急行動をとる(ネイチャーポジティブ)」という方向性を示し、2030年までに地球上の陸域と海域のそれぞれ30%を保全する「30by30」のほか、企業や金融機関が環境に与える負荷を開示する仕組みづくりなどで一致した。気候変動問題では、近年CO2吸収源



Photos of the Adoption of the Kunming-Montreal GBF (CBDホームページより)

としての自然の重要性の認識が急激に高まり気候と自然はコインの両面といわれており、生物多様性を含む自然についても気候変動問題同様の手法により民間資金を動員しようという動きが強まっている。この一環として、TNFD(Taskforce on Nature-related Financial Disclosures、自然関連財務情報開示タスクフォース)が立ち上がり、自然に関するビジネス・金融の影響と依存、リスクと機会を開示しようとする試みが動いている。

GBFは23の目標を示している。このうち、アーバンフォレストに関係の深そうな項目の概略を示す。

行動目標 1：地球上のすべての地域に生物多様性の配慮を拡げ、重要な自然の損失をゼロに近づける

行動目標 2：損なわれた自然の30%を回復させる

行動目標 3：陸・水・海の30%を人と自然の共生する地域として守り、管理する

行動目標 4：絶滅危惧種を守るための緊急の行動と、人と野生動物の衝突回避を進める

行動目標 6：外来種の侵入を突き止め、侵入と定着を半減させる

行動目標 8：自然に根差した解決策で気候変動の緩和と適応を推進し、気候変動対策による自然破壊を最小化する

行動目標12：都市の緑地や親水地域を増やし、都市住民の健康と幸福を高める

行動目標15：企業や金融機関の行動や情報開示を支援し、企業リスクを減らし、企業による行動を増やす

日本政府は、GBFの採択を受けて、新たな生物多様性国家戦略を2023年3月に閣議決定する予定である。すでに中央環境審議会で議論は進んでおり、その内容を環境省ホームページ(生物多様性国家戦略小委員会)で見ることができる。現時点で示されている5つの基本戦略案は、①生態系の健全性の回復(30by30目標の達成、利用・管理における影響軽減、野生生物保護管理)、②自然を活用した社会課題の解決(気候変動・資源循環等とのシナジー、鳥獣管理)、③生物多様性・自然資本によるリスク・機会を取り入れた経済の統合(ネイチャーポジティブ経済:情報開示、ファイナンス)、④生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人ひとりの行動変容:理解・価値観、消費活動)、⑤生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進、である。

アーバンフォレストは、生物多様性と関係が深い。都市の緑地や街路樹は、多くの生きもののすみかとなるとともに、地域の生態系ネットワークの重要な構成要素であり、また、希少種の保全や外来種対策といった生物多様性保全のための取り組みも行われている。GBFや新生物多様性国家戦略の目玉は「30by30」で、2022年4月には環境省から30by30ロードマップが公表されている。これは、国立公園などの保護地域の拡張のみならず、民間が所有する森林や都市緑地もOECM(Other Effective area-based Conservation Measures、民間等と連携した自然環境保全の取り組み)として認定していこうというもので、環境省に検討会が設けられ、自然共生サイト(仮称)認証に向けて取り組みが始まっている。アーバンフォレストの推進に当たっては、こうした生物多様性にかかわる動きもフォローしていく必要がある。

第14回定時社員総会を開催しました

第14回定時社員総会を2022年(令和4年)10月24日(月)にTKP品川カンファレンスセンターで開催し、第13期事業報告および決算、第14期(2022年9月1日～2023年8月31日)の事業計画および予算が承認されました。今回はリアル出席または、電子投票(e投票)による「議決権行使」および「委任」という方法で行われ、第14期事業計画および予算については、i-Treeに関し議決権行使書による反対意見が1件ありましたが賛成多数で可決されました。なお、新型コロナウイルス感染予防のため会場参加者数を制限したため、Zoomウェビナーでも配信されました。

総会後は「ISAについてとアーボリストの役割」と題して、ジョン・ギヤスライト氏(International Society of Arboriculture Vice President、日本アーボリスト協会(JAA)ファウンダー)による総会講演が行われました。また今回は、着席式でしたが懇親会も行われ3年ぶりに対面での親交を深めました。

第14期(令和4年9月1日～令和5年8月31日)事業計画

1) 事業計画作成の背景

1998年、樹木の倒木危険度判定技術を普及し安全で健全な街路樹を育むことを目的に、街路樹診断協会が設立されて今期で25周年となります。

〔四半世紀の活動と成果〕

- ・ 新たな診断技術の導入と国内実情に適した診断の開発。
- ・ 会員技術の向上や普及啓発活動。
- ・ 事業領域を街路樹から都市樹木全般に拡大。
- ・ 日本各地で協会が推奨する診断が一般化されるに至る。
- ・ 東京都や国土交通省の街路樹管理に関するマニュアル作成に深く関わる。

こうして25周年を発展的に迎えることができましたが、これから先の未来に向けての手立ては十分とは言えず、第11期(2019年)から新たなビジョンとして掲げている「**活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す**」は、まだ発展途上です。

2年半のコロナ禍で活動形態は大きく変容し、人が集まっての活動やイベントが制限されました。協会ではいち早いリモート会議の導入や、WEBを活用した資格試験制度の実施などにより効率化が図られ、活動に大きな支障をきたすことはありませんでした。

25周年を迎えるこのタイミングで「**活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す**」というビジョンを実現すべく、未来に向けて従来継続してきた活動に加え、「**技術と信頼性の向上**」、「**DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進**」、「**国際交流を通じたグローバル展開**」、「**若手人材の育成と参画機会づくり**」などの取り組みを強化することとしました。

「**技術と信頼性**」は活動の根幹となるテーマであるため、新たな技術開発やアーバンフォレストに関する共同研究を強化します。

「**DXの推進**」では、国内にアーバンフォレストが定着普及し、効率的な管理が定着するようにi-Treeなどのデジタル技術の国内導入支援を実施します。

「**国際交流**」は、協会発足経緯からしても遺伝的に将来に引き継がれていく必要があります。ISAを始めとする世界の主要団体との交流や海外視察などを通じて、新たな技術やシステムの導入を活性化させます。

「**若手人材の育成**」を今のうちに図り、未来への礎を築きます。

2) 第14期事業計画

(1) 事業委員会

活動方針

「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」というビジョンのもと、①他団体との連携、②協会事業の全般的企画および執行と財務の管理、③先駆者としての社会的地位の確立、④会員サービスの向上を行います。

活動項目

①日本におけるi-Tree Ecoの全国への適用性拡大の推進

i-Treeシリーズの開発を担当しているデイビー社からi-Tree Eco日本国内データ追加のための依頼が協会に寄せられた。アーバンフォレスト戦略の普及・啓発を掲げる協会としては、それに対応することで国内での推進団体として認知されることを目指す。

②先進地視察ツアー開催

ISA(International Society of Arboriculture)年次総会に合わせて視察ツアーを行う。
〔第1回アーバンフォレスト国際ツアー案: 予定日程 8月8日(火)～15日(火)〕

世界のアーバンフォレストの動きや樹木診断等の最新情報を知るため、8月12日～16日に米国ニューメキシコ州で開催されるISAカンファレンスに参加。また、スマイリー博士のバートレット樹木調査研究所を訪問し、世界最高レベルの診断や最新技術を学ぶ。ニューヨーク市のセントラルパーク、ブライアントパークを視察。ニューヨーク市公園局都市計画&GISスペシャリスト島田智里氏、デイビーツリーエキスパート社平林聡氏を訪問することを検討中。

③アーバンフォレスト(街路樹)の優良事例視察

街路樹を主としたアーバンフォレストの優良事例を見学して、会員間の知見向上に役立てる。見学場所は東京都内の優良街路路線。想定参加人数45名程度。

④i-Tree Eco日本版の会員の実装およびウェブセミナー

i-Tree Eco日本版の全国への拡大を受けて会員による実装を支援する。実装を希望する会員へのPR、実装の技術的支援、共同研究者とのマッチング、共同研究者によるウェブセミナーを開催する。

⑤全国落枝倒木事故事例データ(現況、原因、被害状況など)の収集体制の構築

全国で発生した落枝倒木事故について、会員が関わっているものや処理したものについて、原因等のデータを記録し蓄積および分析することで、診断技術の向上につなげる体制の構築を図る。

⑥【継続】アーバンフォレストに関する共同研究

香川大学とのi-Tree Ecoに関する共同研究を継続する。

⑦日比谷公園ガーデニングショー協賛

10月22日から30日まで開催の日比谷公園ガーデニングショー2022に協賛し協会活動内容の一般周知を図る。

(2) 技術委員会

活動方針

次の5点の事業実施を主な活動方針とします。

- ①切断された根系直径と切断面の処理方法に関する調査の継続。
- ②会員の技術向上に向けた講習の開催および動画教材の制作。
- ③街路樹診断の地方展開に対応した街路樹診断協会版のマニュアル作成(主に環境に応じた調査項目の整理)。
- ④移植適性度診断チェックシートの充実。
- ⑤国際交流活動の促進。

活動項目

- ①【継続】切断された根系直径と切断面の処理方法に関する調査。
根系調査(富士植木長浦圃場)を行い調査データ収集および解析を進める。現地調査を実施。
- ②樹木医学会において発表。
- ③【継続】会員の診断技術向上に向けた講習会開催と講習動画を作成。

(3) 広報委員会

活動方針

アーバンフォレスト推進についての活動は、日比谷公園ガーデニングショーにおいて新しいパネル展示や写真コンテストリーフレットの配布および、i-Tree Eco日本版開発なども考慮にいて運用を進めます。

街路樹診断協会25周年記念誌は、2023年10月の総会時に配布する予定です。巻頭挨拶、街路樹診断協会の概要やビジョン、日本における都市樹木診断の歴史、街路樹診断士制度、周年事業紹介、海外との交流、診断技術開発の研究と実用化への取り組み、街路樹診断協会年表と人事一覧、座談会など約100ページの記念誌として編集を予定しています。

ホームページ運用は、ユーザー数が着実に増えていることから広報戦略や新規開拓なども踏まえて、最新の診断技術、信頼の高い情報を継続的に発信します。

活動項目

- ①会報「GAISHIN NEWS(No.14,15)」発行。
- ②日比谷公園ガーデニングショー2022における広報活動。
街路樹診断、アーバンフォレスト、倒木事例に関するパネル等の展示やリーフレットの配布。
- ③25周年記念誌作成。
- ④25周年記念誌作成に関連して次世代座談会(各支部・合同)開催。
- ⑤ホームページ運用(ウイルス対策・システム維持・お知らせ更新等)。
- ⑥ホームページコンテンツ更新等。
樹木のリスクマネジメントのコンテンツ強化・充実。i-Tree特設サイトを作成。都市樹木根系保護に関する動画を作成。関連リンクの更新。
- ⑦オンライン研修サイトのコンテンツ更新等。
- ⑧対外的販促活動用動画掲載企画(堺市・けやき通り)。
- ⑨【継続】 関連雑誌広告掲載。

(4) 街路樹診断士認定委員会

活動方針

街路樹診断士更新および新規認定講習・試験は、「オンライン研修サイト(診断士認定)」を活用して行います。平成28年に発行した「新版・街路樹診断士認定講習テキスト」の改訂が、協会内に街路樹診断士テキスト改訂特別委員会を設けて実施されます。改訂委員に対し街路樹診断士認定委員会が関与し、テキスト改訂を進めます。令和5年の街路樹診断士新規認定講習・試験に間に合うようにテキスト改訂を進め、改訂の主要部は①東京都の「令和3年度街路樹診断等マニュアル」の改訂内容との整合、②担当講師の意見による現実との整合、③繰り返し使われることを意識して言葉使いの整合。また、テキストの変更に伴うオンライン講習コンテンツ(動画)の変更も行います。スケジュールは、テキストの印刷や講習のコンテンツ作成を考え、2023年5月までの改訂原稿作成を目指します。

活動項目

- ①第12回 街路樹診断士新規認定実地講習・実地試験を各支部にて開催。
- ②街路樹診断士テキスト改訂特別委員会への関与。
- ③オンライン研修サイト街路樹診断士認定講習コンテンツ作成関与。

- ④街路樹診断士更新認定事業の実施。
- ⑤街路樹診断士新規認定事業の実施。

(5) 資格審査委員会

協会のビジョンに賛同する加入希望団体等の審査を引き続き行います。

(6) 本部事務局

従来の直接集合形式の会議・イベントを復活させる一方で、オンラインの利点を活かした各事業の継続的な実施を進める予定です。理事会をはじめとする各会議の運営のベースとなるオンライン会議・研修体制の整備を引き続き進め、協会業務の円滑な推進に努めます。

東京都の街路樹診断等マニュアルにおいて、根系保護のガイドラインが設定されました。根系掘り上げ調査等の仕様説明について、事業委員会および技術委員会と連携して進める予定です。

オンライン研修サイトにおいて各委員会が実施する研修会について、サポートを引き続き行います。特に、東京都の関与する研修や街路樹診断士新規認定試験においては、従来と同様に運営に中心的に関与する予定です。協会運営の基本となる総会運営や理事会、常任理事会の開催に加え、これらの研修事業の円滑な運営のためには、運営体制の強化が必要であるため、まず関東支部運営体制の再構築を進めます。

(7) 各支部活動

関東支部

関東支部運営体制を再整備し事業の実施を進めます。

- ①支部総会の開催。
- ②東京都街路樹診断オンライン研修(一般公開研修)を支部技術委員会が実施。

九州支部

九州支部管内で正会員が不在の鹿児島県、宮崎県から正会員の勧誘・入会を目指します。

- ①支部総会の開催。
- ②技術研修(一般公開研修)を沖縄県において開催。
- ③技術研修(会員向け)を大分県において開催。

関西支部

- ①研修活動としてNPOおおさか緑と樹木の診断協会との共催で継続実施している「街路樹研修会」のリアル開催を行います。
- ②自治体向けの営業活動の活性化を図ります。対象は大津市、茨木市、吹田市、神戸市、大阪府、大阪市など。
- ③支部組織の拡大。兵庫県、滋賀県などの会員増を目指します。
- ④本部との連携を強化します。研修事業や新規技術の情報共有など。
- ⑤街路樹診断士の実地試験を実施。
- ⑥25周年記念誌作成に伴う関西支部未来座談会の実施。
- ⑦支部定例会の開催。
- ⑧技術研修(一般公開研修)の開催。



■ 総会講演概要 ■ 「ISAについてとアーボリストの役割」

ジョン・ギヤスライト氏

International Society of Arboriculture Vice President
日本アーボリスト協会 (JAA) ファウンダー

日本にレクリエーション・ツリークライミングを導入し、ツリークライミング技術の高所における樹木診断への活用とアーボリストの技術普及を行っているジョン・ギヤスライト氏による講演が行われました。同氏は、街路樹診断協会が連携強化を図っているISA(International Society of Arboriculture)の副会長でもあります。

ISA設立以前の1930年代から1960年代のアメリカにおける樹木管理の映像を交えて、興味深い講演をしていただきました。



ISA (International Society of Arboriculture)

ISAの本部はアメリカのアトランタ市にあり、約50人のスタッフがいる。プレジデントを含め15人の理事があり、理事は2年先、5年先、10年先のストラテジー (strategy: 目的を達成するための総合的な計画や運用方法) を考えている。世界中の支部はそれを見てコミュニケーションをとる。理事の下に、エグゼクティブディレクターがいる。支部は71か国にあり、ISA直系の支部と、公認提携団体(一緒に活動しているが、自分の組織はそのままある支部)の両方ある。会員数は約25,000人。

ジョン・ギヤスライト氏とツリークライミング

子どもたちや身体障害者の人たちにツリークライミングをしてもらいたい。アーボリストにその木が安全かどうかチェックして欲しかったが、日本にはアーボリストがいなかった。そこで、ISAにアーボリストを日本に派遣するか日本人のアーボリストを育てるためのトレーニングをしてくれるよう頼んだが、アーボリストを作るには10年かかる、アメリカと日本では違うことも多く難しいと断られた。

自分がやるしかない！

そして今や、カリフォルニアのジャイアントセコイアの森で、自らが育てている日本のアーボリストとともに樹高80mのジャイアントセコイアに登り、研究を行い森林の保護活動をし、種子を採取するなどの再生プロジェクトを行っている。

日本のアーボリスト

ギヤスライト氏が中心となって創設した日本アーボリスト協会(JAA)は、ISAの公認提携団体。安全技術をベースに据えたツリークライミング技術、木を大切に扱う基本姿勢が根幹にある。仕事として樹上作業を行う技術者のための安全確保と技術普及を目的に発足した。

ISAが認定するアーボリストを育成するのはISA認定のアーボリストトレーニング組織であるアーボリストトレーニング研究所(所長はギヤスライト氏)。資格名は認定樹護士アーボリストと認定マスター樹護士アーボリスト。いずれも一定基準以上の技術を有し試験に合格した者に与えられる資格。

トピック アーボリストとは

アーボリストの系譜は古代エジプト、古代ローマにまでさかのぼれる。

日本ではいろいろな形の斧が出土しており(35,000年前)、最近ではその頃から木の剪定もしていたのではないかとされている。

アーバーはラテン語で木という意味。「ist」は本職で素晴らしい技術をもっている人のこと。例えばバイオリニスト、ピアニスト。そしてアーボリストは、木に関わる職業をしていて素晴らしい技術をもっている人。アーボリストは、アーボリストという名前に自信とプライドをもっている。1570年代のフランスでは、木を剪定するワーカーとは違い、芸術的に仕立てるのがアーボリスト。日本の台杉は今、海外でブーム。1本の木からたくさんの木がとれ、なおかつ普通の杉より柔軟性があって強い。台杉もアーボリストの技。

ISA設立の流れをつくったジョン・デイビー(デイビー・ツリー・ケア・カンパニー) 一街の樹木の管理は危険な仕事だった

1901年、ジョン・デイビーがツリー・ケアの会社として創立したデイビー・ツリー・ケア・カンパニーでは、木の剪定よりも治療とアセスメントを行い、それに従事する人に対してツリードクターという名前を使った。その木は安全かどうかを見て、どのように治療するかを決めるのがツリードクターだった。

彼は1907年に『ツリードクター』という本を出版した。当時アメリカには、森がいっぱいあり、どんどん木を伐採し製材して売っていた。一方、街にはあちこちに木を植えていたが、それを管理する人たちの仕事は危険だった。そして使用している農薬の種類や治療の仕方もよくわかっていなかったため、木の管理をする人はみな勉強して、ツリードクターが必要だという内容だった。この本でジョン・デイビーは、木の管理技術・方法がバラバラなので、統一しようと声をかけた。しかし政府は動かない。それならば企業がやるべきだと、彼の会社が手掛けることにした。

当時は、樹高の高い木を剪定する人は、ライフラインも何もなく登っていくので、落ちても仕方がないという時代だった。林業の人たちが街の中に入って行って木の管理をすると、林業ではスパイクを使って木に登っていたが、街の中ではスパイクは使えないためはしごを使った。あるいは1本のロープだけで木登りする、軍人用のブーツを履いて作業するという状況だった。

治療は、腐っている部分を取り出して、中にコンクリートを埋め込んだり農薬を散布していた。マスクも付けずに農薬を撒いて、あとで病気になったりするなど、大変なことになっていた。そこでISAが最新の技術を生かしながら、でも危ないと分かったことに対して、ベストプラクティスやベストマネジメントを考えることにつながっていく。

アーボリストの育成

ISAのルーツは1924年に初めて行われたカンファレンス。その時は、みんな一緒になって安全について考えようと7州から36人が集まった。デイビー・ツリー・ケア・カンパニーとバートレット・ツリー・エキスパートも参加している。

1930年代は、電線と木の競合が問題になってきた。デイビー社やバートレット社は主に人家の木の仕事しており、電線に関してはあまり仕事をしなかった。そこで、アスプルンドという会社ができ、電線とストリートツリーのみ行った。デイビー社やバートレット社は Big Miss! というのは、いま世界で一番大きい会社はアスプルンド。需要があり続けた。現在、デイビー、バートレット、アスプルンドの3社が業界を引っ張っている。

どのように電線などに対応して安全に仕事をするか、1940年代から60年代まで模索は続くが、その頃はまだワーカーとして実際に仕事している人の技術や安全対策はあまり変わっていない。

1976年に名称がISAとなりベストプラクティス(科学的なことを基礎にした安全で一番良い方法)を提供していくことになる。サイエンス・ベース・システムティック・トレーニング。これを段階を踏んで学ばなくてはならない。そのようにツリーケア・アンド・セーフティーにフォーカスすることがISAの根幹にある。最初の50年間(1924年～1975年)でメンバーは3,000人しか集まらなかったが、ツリーケア・アンド・セーフティーにフォーカスしていくと、次の50年間(1976年～2022年)では24,000人がメンバーになった。

アーボリストには様々な種類があり、段階を踏んでマスターアーボリストになる。現在35,000人がサーティファイドアーボリスト(認定アーボリスト)の資格をとっている。マスターアーボリストは10,000人。

サーティファイドアーボリスト(認定アーボリスト):一定の基準のもとに認定されたアーボリスト。

ユーティリティアーボリスト:ストリートツリーや電線の近くで仕事するアーボリスト。

ミュニシパルアーボリスト:公共の都市樹木の業務に携わるアーボリスト。アーバンフォレストの調査や計画、植栽計画、樹木の維持管理やリスクマネジメント、保全に携わる。樹木に関する政策や条例の立案、他局やコミュニティとの調整なども行う。

昔はツリードクターが診断、そしてツリーサージョンに仕事を委託していた。ISAは、このシステムを変えて診断も治療・処置作業も、全部認定アーボリストができるようにと考えた。そうすると、お客さんが払う金額は減るが、認定アーボリストはたくさんの本数の仕事ができる。ツリーワーカーは実際に木の治療・処置を行う。

TRAQ(トラック)は危険木の診断や評価に関わる資格で、10,000人が資格をもっている。TRAQは認定アーボリストの資格またはそれと同等の教育を受けた者に受験資格がある。

ANSI(American National Standards Institute 米国国家規格協会)

— ANSIは、日本のJISのような国の基準

ANSI Z133は、アーボリストのためのベストプラクティスで、アーボリストためのスタンダード。このきっかけになったのは女性、普通のお母さん。1968年、彼女の息子がアーボリストの仕事で、電線の近くの仕事をしていた死亡した。納得できず悲しくてしょうがない。そして、この職業は最低最悪だ、子どもたちはこんなふうに死んでしまうと訴えると、ある新聞が彼女の話を書いた。すると、子どもがケガをした、亡くなったという大勢の母親がいた。そしてだんだん運動が大きくなり、ホワイトハウスまで行った。これを救わなければならない、どうしてこの職業はこんなに危ないことをしているかと1972年、アーボリストを安全な職業にしようということで基準ができ、推進するために4年後の1976年にISAができる。

ANSIは、死亡やケガの事故が起こって作っているのだから2度はないように考えている。ベストプラクティスというのは、事故があって分析してこういうことだから、以後は絶対にならないようにと作っている。よく他の国が基準を作っていくのは難しいというのは、実際にこれを誰かが想像してリスクマネジメントしなければならないからだが、日本でもこれからいろいろな基準を作らなければならない、検討していきたいと思っている。

ギヤスライト氏から協会へのメッセージ

日本からもISAでどんどん発表・発信して欲しい。海外の人は、日本で何か素晴らしいことやっていると思っても、何をしているかわからない。なかなか伝わってこない。例えば、日本では天然記念物の木にずっと関わっている人がとても大事にされること。日本にはツリードクター(樹木医)がいてアーボリストの仕事をして、ドクターの中にはクライミングする人もいるということなど。

… 協会設立25周年記念誌企画 …

次世代の樹木医が見据える都市樹木の未来座談会<3支部合同>

協会設立25周年記念誌企画として「次世代の樹木医が見据える都市樹木の未来座談会」が行われました。まず、9月に関東支部、関西支部、九州支部それぞれでの座談会が行われ、11月11日に福岡市内の会場に3支部の代表が集まり、ブレインストーミングによる合同座談会が開かれました。



日 時： 2022年11月11日(金) 14～17時
 会 場： リファレンス駅東(博多駅)
 参加者： 関東 アゴラ造園 村田 千尋
 関東 東邦レオ 高村 聡
 九州 水野文化園 水野 晴之
 九州 森園芸場 岩熊 直樹
 九州 内山緑地建設 能勢 彩美
 関西 日比谷アメニス 石田 浩之
 関西 庭樹園 野口 よしの
 (オンライン) 関西 八景 堀内 大樹

テーマ

25周年を迎えるにあたって、長期的視点を見据え協会に期待したいこと

- ・ 樹木診断技術はどこまで進化するだろうか
- ・ AIが発展した際の樹木医、協会の役割とは何か

これからの機器、技術について

DXの導入、植栽基盤の診断方法や診断機器のアップデート、既存の診断機器についても軽量化や、もっと簡易に扱えるようになることよい、非破壊で携帯可能な診断機器が新しく開発されることよい、という意見が出された。昨今注目されているドローン技術を樹木診断に活用しヤモリのように木登りができるようなドローン、ドローンの特性を生かして、樹木の上から空中から異常を判断できるようなドローン技術などのアイデアが出された。

〔ドローン〕

- ・ ドローンで空中から樹木を細かく見られるような技術ができるとよい。巨木であっても詳細に診断できる。
- ・ 登攀型のドローンで高所の診断ができるようになることよい。
- ・ ドローンで魅力ある撮影ができると街路樹やアーバンフォレストの良さを伝えやすい。⇒SNS発信

[DX]

- ・症例の蓄積等が必要になるが画像認識の活用。樹種、病虫害などがある程度は特定できる。腐朽菌についても腐朽のスピードや危険性が認識できるようになるとよい。
- ・枯れ枝を水分量等の要素から判断できる写真アプリや機器の開発。
- ・外観をスキャンして3Dで内部の腐朽状態を示すことができる技術。
- ・外観からはわからない根株腐朽。カメラ(スマホ)をかざせば、外から見られるサインと今まで診断してきたもののデータベースとを合わせて、異常があるのではということがわかるとよい。
- ・舗装の上から根の生育状態がわかるような機械があるとよい。
- ・風に対する応力計算アプリ。これぐらい剪定すれば、これぐらいの風は大丈夫というのが出るとよい。
- ・都市における風速や風向のシミュレーションアプリ。ケーススタディの蓄積でこういう環境だったら倒れる率が高いという情報や、計算できるアプリがあるとよい。
- ・3Dスキャンと、メタバースができれば、剪定の練習をバーチャル上でできないか。風圧軽減剪定などを実体験に近い形で練習ができるとよい。
- ・木1本ごとに、揺れや傾きを測定する機械をつけてタグと連動させる。常にオンラインで繋がってリアルタイムでこの揺れは大丈夫かを調べることができるとよい。
- ・木の規格とその落ち葉量の計算式があるとよい。行政に役立つ。

[診断機器、検査機器]

- ・植栽基盤の診断で長谷川式透水性試験。多くの道具があり、時間がかかるので簡易的かつ精度良く行える機器が開発されるとよい。
- ・診断機器の軽量化。ピカスは荷物が多くて煩雑、レジストは1人で持つには少し重量がある。非破壊でかつ携帯しやすい診断機器が開発されるとよい。
- ・診断機器。人間のMRIのように、それをかざしてスキャンすると空洞部がわかるような、ドラえもののひみつ道具のようなものがあるとよい。

[データの横断的公開、樹木診断カルテ]

- ・埋設物等の他の工事や施設のデータと合わせて、樹木が育っている環境を把握できるようなデータベースがあるとその環境の全体を見ることができる。行政の区分を隔てずに全体のデータベースとして活用できるとよい。
- ・それぞれの道路の現状に合わせた、細やかな樹木診断カルテが必要になるかもしれない。電線も地中化されて複雑になっていく中で、現状のカルテは、外観の植樹や植栽の状況写真だけ。地下の図面も見られると、街路樹のことをあまり知らない行政の担当者や新しく入った業者さんにも根元はこうなっているかもしれないということがわかり、ある程度の予測もできる。

協会に期待すること

発信と教育に期待。

街路樹診断がまだ行われていない自治体にアプローチして街路樹診断を取り入れてもらうようにする。

アーバンフォレスト推進のために、YouTubeの開設、ドローンを活用した動画制作、チラシ、街路樹マップなど資料の作成・配布、子どもたち向けに公園や都市の緑などアーバンフォレストの良さやメリットについての絵本をつくる、小・中学校の教科書に載せてもらえるようにする。

アーバンフォレストとは何かを理解し意思統一のため、小規模でよいので協会が理想とするアーバンフォレストをつくる。あるいは仮想空間のメタバースでもよい。

樹木医技術の差をなくすような措置を講じる。

〔一般への発信〕

- ・アーバンフォレストとは何かは難しい。小規模でよいので街路樹診断協会が理想とするアーバンフォレストをどこかにつくってほしい。おおむねこうだ、これを目指してやれば良いのだとわかる場所があるとよい。仮想空間、メタバースでもよい。きちんと説明をしてアーバンフォレストを広めていく。
- ・市民に木の機能やアーバンフォレストを説明する時の補助になる絵本、パンフレットがあるとよい。
- ・木やアーバンフォレストについて子どもの絵本、教科書に取り上げられるとよい。子どものころからの教育が大事。
- ・SNS発信。YouTube開設などをして全国の樹木医に発信してもらう。
- ・ニューヨーク・ストリート・ツリー・マップ(ニューヨークにある1本1本の木について、名前、いつ花が咲く、この木はこのようにみんなの生活に役立っている、この木の年間のお金の価値はこのくらいなどを発信)の日本版ができないか。
- ・ニューヨークのように市民の力を生かすには、樹木の調査などのボランティアを育成するための講座が必要になる。
- ・アーバンフォレスト推進活動のための資料やフライヤーを作るサポートがあるとよい。協力してもらえらる態勢が協会の中にあると市民への発信力を強化できる。

〔技術のブラッシュアップと責任〕

- ・剪定で目指す理想樹形がわかるようなマニュアル作成。
- ・診断士のランク付け。一級街路樹診断士、二級街路樹診断士など。街路樹診断士になるのがゴールになってしまっている人もいるので、その先の目標があるとよい。
- ・街路樹診断士と植栽基盤診断士はセットの資格。両方とったらマスター診断士なるといったコラボレーションができるとよい。
- ・診断カルテに関して、匿名だと責任の所在が曖昧になってしまう。倒木事故等が起きた場合にカルテが訴訟資料として裁判に出てくる。そういった状況下で、匿名というわけにはいかない。他の公共工事と同様に管理技術者的な役割を樹木医が負っていくことになるのではないかな。

〔自治体への発信〕

- ・樹木診断は、自治体による認識の差が非常に大きい。まだ取り組んでいない自治体等に対して、協会が積極的な働きかけを行ったり、特に進んでいる自治体の取り組み等を紹介したりする。現状は、事故が起きてから慌てて予算をつけて対応するような状況が多いが、事故が起きないように取り組んでいく必要があることを説明していく。
- ・街路樹診断協会の名刺を持ち、協会員という信用を企業の営業にも生かせるようになるとうよい。

樹木診断技術やAI等が進化した際の、樹木医や協会の役割

協会は新しい技術の検証を行い普及する役割や、人と技術、人と人をつなぐ役割がある。

〔技術、機器の検証〕

- ・いろいろな技術が出たとしても、技術が正確かどうかよくわからない。例えば、携帯のアプリで土色帖の判断ができる技術ができたが、本当に適合するのかわからないのを検査してみたところ一致しない。こうした技術の齟齬もあるので、樹木医として確かめる必要がある。街路樹診断協会がそうした技術の実証実験をしてほしい。結果をすぐさま広報して、良いものは広げる。

- ・新しい技術がどんどん出てきて、いろいろな新製品、診断キットが開発された場合も、性能、品質の検証作業は協会が行っていくべき。AIを活用した診断技術の信用性を担保していくためには、協会による基準や仕様書等の整備、学会あるいはメーカーとも連携しながら行っていくことが必要になるのではないかと。

〔人と技術、人と人をつなぐ〕

- ・いろいろな診断機器が発展してきたとしても、それを総合的に分析することは必要。分析・評価して、それをわかりやすく市民や行政に伝える役割はなくならないと思う。総合的に木と人を繋ぐ役割をこれからも樹木医が担っていかないと。
- ・AIが浸透したとしてもそれはツール。システムの操作や結果の妥当性の確認は、樹木医が担うべきだろう。
- ・診断機器がもっと手軽なものになることで、誰でも使えるというのは大事だと思う。例えば人間は、体調が悪いときに血圧計で血圧を測ったり、体温計で熱を測ったりして、異状があったら病院に行くというように、樹木の異常について、だれでも簡単に検査ができて、その先は樹木医が診る。樹木医が専門的に診て、この先、どうするかを判断するという流れにしていくのがよいのではないかと。
- ・技術があれば機器、機械は補助的に使える。基本があれば新しい人たちに伝えることができる。知識があれば教育ができる。最終的には我々の技術、能力自体を上げていく必要がある。それを踏まえての研修会や能力の平準化。他の樹木医がどういう木をどう判断するのかも知りたいと思う。現場から得られるものは大きい。
- ・DXが進むと最終的にアナログに戻ると思う。街路樹、公園を、話を聞きながら、説明してもらいながら回るのは、楽しく、理解も進む。デジタル、YouTube、メタバース等を見て、最後にまたリアルを見ると全然感動が違う。

今後の協会

- ・発信、教育の面でも、20年後を見据えて今のうちに20年後の人材確保をする。
- ・発信と教育は樹木医でなければできない。人に伝えるのは人。伝えるときに技術や知識がないと浅いものになってしまう。人を育てる場として、協会の価値は大きい。
- ・異業種と協働することによって、また新しいアイデアが生まれたり技術が生まれたりという可能性もあると思う。若手も含めた協会員でチャレンジしていけるとよい。
- ・日本中、世界中の知恵が集積され、データベースにされて、それをもとに、オンラインも含めて研修会を増やしたり、会員からの状況が吸い上げられる場所に協会がなり、市民、行政、業界、全国、世界の垣根を越えたプラットフォームになるとよいと思う。
- ・協会が、アーバンフォレストに関わる多様な主体がフラットに集う場でありたいと思う。



切断された根系直径と発根量の関係および切断箇所の処置方法

石井匡志・小島和夫・高田恵一・高村聡・有賀一郎・伊東伴尾・笠松滋久・服部雅樹・堀内大樹・山本三郎

1. はじめに

都市樹木の根は、埋設物の設置などにより切断されることがある。その切断面から根株が腐朽し、倒木の一因となっている事例がある。しかし、埋設管や標識類の基礎コンクリートなどが狭小空間に併設される日本の街路・公園環境では太根切断はやむを得ない場合があり、根系の切断後の経過やその処置方法についての調査研究は必須である。そこで、本調査では切断された根系直径と発根量の関係を明らかにすること、根を切断した際の処置方法と発根量の検証を目的とした。

2. 材料と方法

根の切断面の直径と発根量の関係

東京都内の街路から千葉県市原市内の圃場に移植され1年が経過したソメイヨシノ2本を対象とし、移植時の根の切断面から発生した根の本数を計測した。

根の切断箇所の処置方法

埼玉県深谷市内の圃場に植えられているシラカシ、ケヤキを対象とし、直径26 mm以上の根の切断面に、チオファネートメチル含有の酢酸ビニル塗布剤、シリコーン系シーリング剤、アスファルト乳剤、浴室タイル補修などに用いられるエポキシ系パテの水中ボンドを塗布した4区と無処理の対照区を設け、1年後に切断面からの発根数を計測した。

3. 結果

根の切断面の直径と発根量の関係

切断面の直径1 mmあたりに対する発根量(発根数/直径)を求めた結果(図-1)、直径20 mm未満の根の発根量は、直径20 mm以上の根より有意に発根量が多かった。20 mm以上の根の直径1 mmあたりに対する発根量(発根数/直径)は、直径による差はみられなかった。

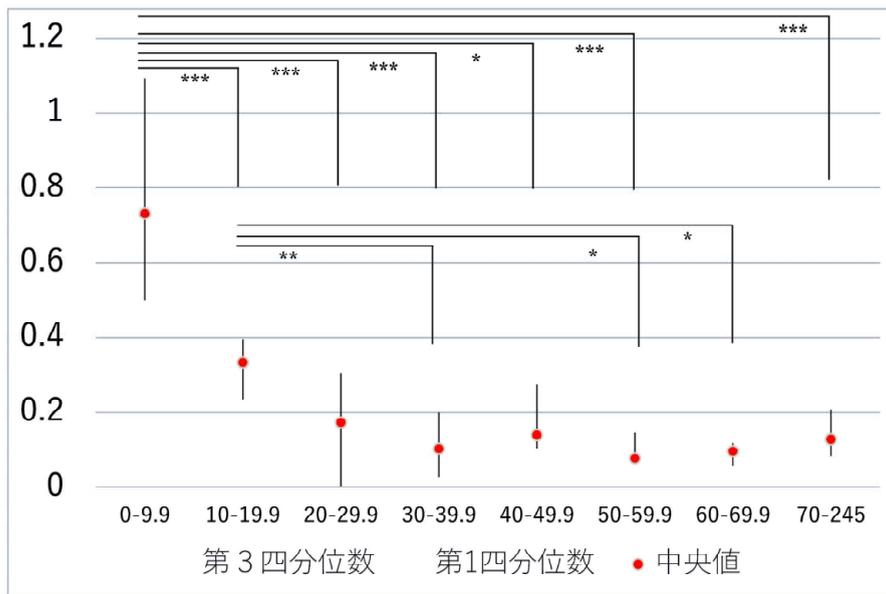


図-1 切断面の直径1 mmあたりに対する発根量(発根数/直径)
 横軸：切断根の直径(mm) 縦軸：単位直径あたりの発根数(発根数/直径)
 ***p<0.01 **p<0.05 *p<0.1 (Steel=Dwass 検定)

根の切断箇所の処置方法

シラカシ(図 - 2, 3)およびケヤキ(図 - 4, 5)のいずれでも、無処理と比較して酢酸ビニル塗布剤で発根数が多くなる傾向がみられた。

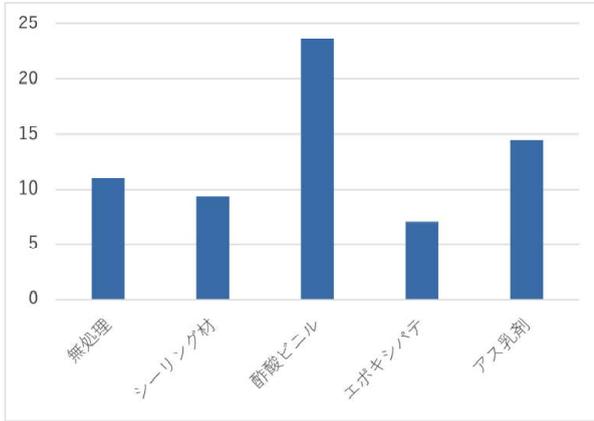


図 - 2 発根数の平均値 縦軸(本)

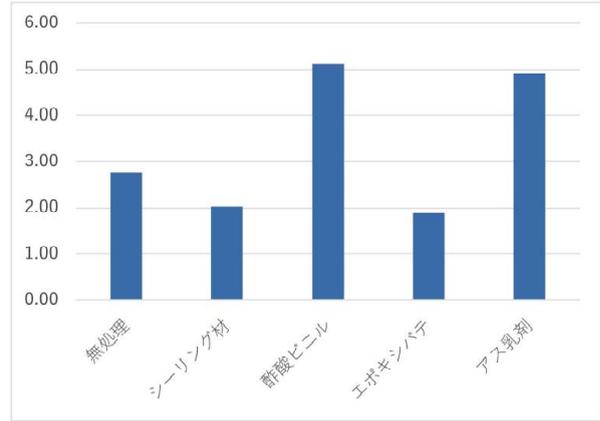


図 - 3 平均発根数 / 平均直径 縦軸(本/mm)

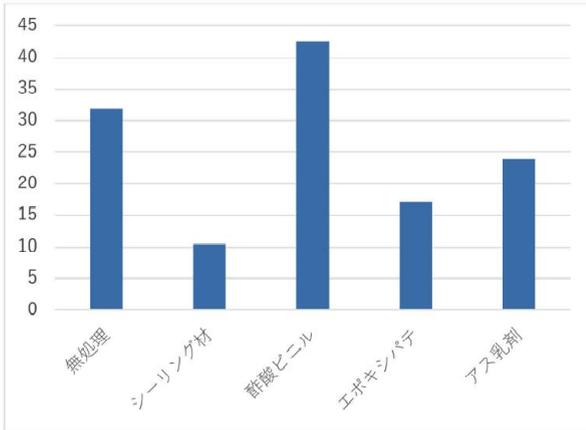


図 - 4 発根数の平均値 縦軸(本)

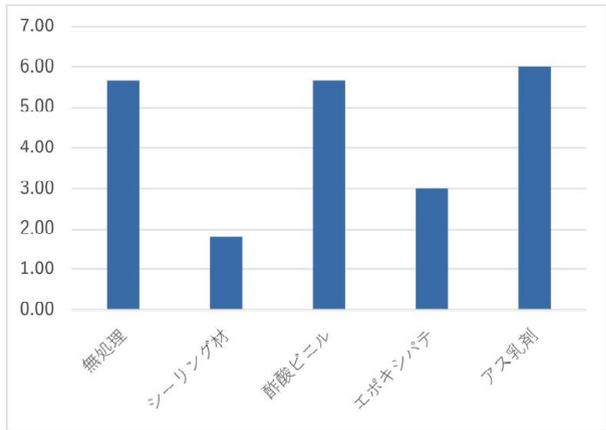


図 - 5 平均発根数 / 平均直径 縦軸(本/mm)

4. 考察

根の切断面からの腐朽菌の侵入を防ぐには、発根と肥大による切断面の巻き込みが重要である。根が切断された場合、直径20mm未満の根においては、切断後、発根と肥大により切断面が速やかに覆われると考えられた。根の切断面への処理方法として酢酸ビニル塗布剤による被覆により、発根数が増加することが示唆され、直径の大きな根の巻き込みを促進するための有効な方法のひとつと考えられた。

5. おわりに

今回実施した2件の調査では、サンプル数が少ないことが課題である。この課題に対して既に異なる3種類の酢酸ビニル塗布剤を用いてシラカシ、クスノキを対象とした実験を開始した。この調査では、幹周約100cm以上の成木8本を対象とし、十分なサンプル数が確保できるように試験区を設定している。2023年1月に根系調査を実施しており、その結果により酢酸ビニル塗布剤の効果がより明確になると考えている。

街路樹診断士立会の整備工事

本山 圭一郎 (関東支部 / 株式会社柳島寿々喜園)

私が街路樹診断士の資格を取得してから七年が経ちますが先日、樹木診断以外の業務で街路樹診断士の資格が施工条件となっている工事物件を担当しました。

霊園の一面の整備工事ですが、以前に立曳きで移植されたタブノキの大木(目通り310cm)があり、そのタブノキの保護管理作業において、街路樹診断士の立会が条件となっていました。

当時、タブノキの立曳きの見学会案内が会社にも来ていましたが、残念ながら見学に行けなかったのを覚えています。こんなことになるなら、無理にでも見学に行っておけばよかったとか、見学していない身分でこの業務に携わっていいのかなとか思ったりもしましたが、街路樹診断士である私のための仕事を取ってきてくれたんだと思い、ありがたく受け入れました。

施工内容は土壌改良、枯枝剪定、幹巻き、マルチング等であり、土壌改良はエアースコップを用いる仕様ですが、実際にエアースコップを使うのは初めてでした。エアースコップがどれ程のものかと期待と不安を抱きながら、職人さんと恐る恐るつぼ穴を掘削していくと、先端のゴムのカバーが穴の中で外れて奥に潜り込んでしまい見つからず、埋めたままにでもしようものならたたられると思い、必死に探り当ててもらったのを覚えています。土ぼこりも予想以上にひどかったのですが、ハツリ用のガードとして購入していたネットを取り付けてみると、これが功を奏して快適快適、我ながら良い買い物をしたなと一人喜んでいました。つぼ穴の中は、予想以上に沢山張り巡らされた細根が存在しており、エアースコップの有能さと、立曳きというおそらくタブノキの中での一番の転機から、身を削りながらも回復へ向かっている大木の生命力に偉く感動しました。

枯枝剪定、幹巻きについてもツリークライミングの有資格者にての作業が施工条件となっていました。



職人さんも立っている大木の幹巻きはほとんど経験がなく、四苦八苦しているのを下から「頑張っ〜」と苦労を余所に気軽に応援しながら眺めていました。

先日、総会でのガスライト氏の講演の中で『Doctor』と『Surgeon』のお話がありました。この時の作業を思い出し、小さな規模ですが『Doctor』と『Surgeon』に自分が携わっていたのだなと一人うれしくなりました。このような仕事が増えてくれると、街路樹診断士冥利に尽きますね。



実生の木のたくましさ

藤原 圭介(関西支部/株式会社日比谷アメニス大阪支店)

私たちは、樹木等を植えてそれらをうまく育て、きれいな景色を作るのを日常の生業としています。街路樹も同じく、きれいな状態であってほしいと常に思っているわけで、診断業務の中で、傷んでしまった樹木を見ると残念な気持ちになります。その残念な状態の木々の中には諸事情で伐採の憂き目にあう樹木も多くありますが、その一方、どこからか飛んできた種子が発芽し根付き成長した樹木もよく目にします。一時ブームになったシマトネリコはこの典型で、あちこちでよく実生ものを見かけます。写真は、いずれもクスノキの実生木で狭いところで発芽し、この写真の時点では3mから5mほどに成長しています。このような木を見て、そもそも植物はこのように育つものだということを改めて知るわけです。いつもは、どこか遠くの畑で大きくなったものを運搬し、あまりよろしくない環境に植えてうまく育たないことを嘆き、何とか大きくなるようにあれこれいじくっているのが仕事になっています。



このようなたくましく育つ実生木を見ると、そのたくましさに感動し、日ごろの仕事の意味を振り返ったりするのです。

このようなたくましく育つ実生木を見ると、そのたくましさに感動し、日ごろの仕事の意味を振り返ったりするのです。

釣りは楽しい

淵上 信哉(九州支部/有限会社信香園)



熊本と鹿児島県の県境で暮らしております。過去に大きな環境被害がありましたが現在では自然の恵みと豊かさに辟易しています。辺境の地に住んでおりますゆえ、文化的な余暇を楽しむ施設がほぼありません。いい年をしたオジサンは何を楽しめばいいのかなと、さまざま

よっていた時に麻雀に誘われて時間や大切なものを浪費しておりました。癖の強い暇を持て余したオジサンたちに誘われるままに遊び倒してきました。出かける際には仕事の振りをして出かけています。

そんなある日「釣りに行きましょう！船に乗って！」というお誘いを受けました。初めての釣行では一尾も釣れず、船から落ちて買ったばかりのスマホと眼鏡を落としてと散々でした。それから1年ほど経過し「リベンジしますよ！」と夜の海へ。イカ釣りです。イカメタルというカッコいい名前のルアーのような仕掛けで海底からじわじわりールを巻き上げるだけでいいと教わりましたが釣れません。夜の海は何も見えず波に揺られ軽い船酔いに。つれないなーと巻上げてみるとあれ？釣れてる。最初はイカのアタリにも気づきませんでした。イカのシーズンが終わるとタチウオ、たまにタイラバで五目釣。

釣り糸の結び方も覚えられない初心者ですが釣りは楽しいです。麻雀と比べ健全で、堂々と「行ってきます」が言えます。釣れた時は食材ゲットと献立作りのアシストができます。おいしい魚を持ち帰るために、YouTubeで絞め方や捌き方を勉強中です。



こんなの釣りタイ

第2回 各地のアーバンフォレスト写真コンテスト

<都市樹木の部> 結果発表

当協会では、2019年(11期)からの活動ビジョンとして「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」を掲げ、「アーバンフォレスト推進」に取り組んでいます。

広報委員会では、協会員の皆様に、アーバンフォレストについて関心を持ち、理解を深めていただけるよう、2022年4月～6月、第2回アーバンフォレスト写真コンテスト<都市樹木の部>を実施し、20作品のご応募をいただきました。審査委員会で審査の結果、最優秀賞1点(副賞:QUOカード2万円)、優秀賞2点(副賞:QUOカード1万円)、特別賞2点(副賞:QUOカード5千円)が決まりました。

全応募作品は、ホームページで「アーバンフォレストの風景」として、動画でご覧になれます。

<https://www.gaishin.com/urbanforest/>

応募された作品は協会紹介のパネルでアーバンフォレストのイメージとして使用し、リーフレットとしても配布しています。

(敬称略)

- 最優秀賞** 篠丸 寛(関西支部・東邦レオ株式会社) 中之島公園/ケヤキ(大阪府大阪市北区)
- 優秀賞** 有賀 一郎(関東支部・サンコーコンサルタント株式会社) 作られた武蔵野林/コナラ、クヌギ、サクラ等(東京都板橋区)
- 優秀賞** 酒見 一幸(九州支部・株式会社森田緑化造園) 白川緑の区間/クスノキ、ムクノキ等(熊本県熊本市)
- 優秀賞** 関 健二(九州支部・株式会社九州開発エンジニアリング) 水前寺江津湖公園/クスノキ、エノキ、チシャノキ等(熊本県熊本市)
- 特別賞** 平賀 耕介((関西支部・株式会社日比谷アメニス) 須磨離宮公園/クスノキ(兵庫県神戸市須磨区)
- 特別賞** 能勢 彩美(九州支部・内山緑地建設株式会社) アクロス福岡ステップガーデン/ナナミノキ、スダジイ、ハゼノキ等(福岡県福岡市中央区)

最優秀賞 篠丸 寛



「都心のオアシス」
大きな樹冠の心地よい緑陰
中之島公園/ケヤキ(大阪市北区)

優秀賞 有賀 一郎



住民が植樹して45年、
自然度の高い雑木林
作られた武蔵野林/コナラ、クヌギ、
サクラ等(東京都板橋区)

優秀賞 酒見 一幸



河川改修で移植、
住民の思いが込められた水辺の緑陰
白川緑の区間/クスノキ、ムクノキ等(熊本市)

優秀賞 関 健二



歴史ある人工湖畔のアーバンフォレスト、
人々の憩いの場
水前寺江津湖公園/クスノキ、エノキ、チシャノキ等
(熊本市)

特別賞 平賀 耕介



歴史ある地域のシンボル樹、
巨大な緑陰に憩い
須磨離宮公園/クスノキ(兵庫県神戸市須磨区)

特別賞 能勢 彩美



30年を経た屋上緑化、
「都心の山」景観
アクロス福岡ステップガーデン/ナナミノキ、
スダジイ、ハゼノキ等(福岡市中央区)

「第20回 日比谷公園ガーデニングショー2022」に出展

2022年10月22日(土)から30日(日)まで日比谷公園で開催された「第20回日比谷公園ガーデニングショー2022」のテントブースに出展しました。新型コロナウイルスの感染流行で3年ぶりの現地開催となった花とみどりの祭典は連日活況を呈しました。

日比谷公園開園100年を記念して始まった同ガーデニングショーは20回目となり新たな節目を迎え「花とみどり・環境」のメッセージを世界に発信するとともに、これからの持続可能な社会を目指し「花とみどりの力」がもつ可能性を提案、開催テーマは『つなげよう！花とみどりの力で』でした。

新型コロナウイルスの感染拡大は人々のライフスタイルや価値観にも影響を及ぼし、これまで以上に花とみどりに触れ合う機会を求めるなど、都市における緑の役割は大きくなっています。協会の展示では、樹木の腐朽断面を置き、安心して安全な都市の緑のために樹木診断の必要性和方法、街路樹診断士など協会の事業内容を紹介しました。

そして今回新たに、アーバンフォレスト推進の紹介と2021年・2022年に行ったアーバンフォレスト写真コンテストの写真展示を行い、各地の美しい街路樹、都市樹木の景観写真に多くの来場者から関心が寄せられました。熱心に写真を見て、さらに、アーバンフォレスト紹介リーフレットを持ち帰る人も多くいらっしゃいました。

パネル展示やリーフレット配布は、協会・街路樹診断・アーバンフォレストを一般の方に知っていただく良い機会となりました。

ブース管理と来場者への説明に当たっていただいた皆さまにお礼申し上げます。



各委員会の活動報告(2022年6月~12月)

事業委員会

委員長：野上一志 副委員長：當内匡、吉岡威
委員：宇田川健太郎、本山圭一郎、安田卓宏

事業委員会では、総会で承認いただいた事業計画に委員一丸となって取り組んで参ります。特に i-Tree Eco が全国に適用拡大されることはアーバンフォレストを普及する追い風となることから、会員へのフォローも含め積極的に事業を展開する予定です。

また、昨年度に実施しました会員アンケートの結果を協会ウェブサイト(ホームページ)の会員専用ページに掲載いたしますので、併せてご確認いただき、引き続きご意見、ご要望をお聞かせいただけましたら幸いです。

〔委員会・活動〕

- 6月14日 第7回事業委員会(オンライン開催)
- 7月 8日 第8回事業委員会(オンライン開催)
- 7月25日 アーバンフォレスト共同研究 i-Tree データ実測
- 7月29日 アーバンフォレストを掘り下げるwebセミナー#4
- 8月10日 第9回事業委員会(オンライン開催)
- 9月16日 第1回事業委員会(オンライン開催)
- 10月11日 第2回事業委員会(オンライン開催)
- 11月10日 第3回事業委員会(オンライン開催)
- 12月16日 第4回事業委員会(オンライン開催)

技術委員会

委員長：石井匡志 副委員長：高村聡
委員：小島和夫、高田恵一、服部雅樹、堀内大樹

技術委員会では9月、10月に2回の委員会を開催し、「切断された根系直径と発根量の関係および切断箇所の処置方法」について、実験結果に基づいた議論を行いました。この結果は12月4日に行われた樹木医学会にて発表しました。あわせて、東京都の委託で実施した機器診断の精度検証結果についてもポスター発表(3報)を行いました。

総会では、以下の4点を事業計画として報告し承認されました。

- ①切断された根系直径と切断面の処理方法に関する調査の継続
- ②会員の技術向上に向けた講習の開催および動画教材の制作
- ③街路樹診断の地方展開に対応した街路樹診断協会版のマニュアル作成(主に環境に応じた調査項目の整理)
- ④移植適性度診断チェックシートの充実

〔委員会〕

- 9月 5日 第6回技術委員会(オンライン開催)
- 10月 5日 第7回技術委員会(オンライン開催)

広報委員会

委員長：菅森雄一郎 副委員長：笠松滋久
委員：向山直宏、伊東麗子、石田浩之

ホームページの運用では、各委員会と連携をとりながら、継続して情報発信を行いました。リニューアル当初の月間ページ閲覧数839・ユーザー数79に対し、8月31日時点で月間ページ閲覧数8051・ユーザー数946と共に約10倍近くの運用状況となっています。これは事業委員会主催のアーバンフォレストセミナーの動画公開や、オンライン研修の充実など、常に信頼ある情報を委員会内で共有して積極的に実施した結果です。

協会設立25周年を迎えるにあたり、記念誌の発行(2023年9月)に向けて、具体的スケジュール指標を示し、座談会や未来座談会を重ねてきています。アーバンフォレスト推進においては、第2回写真コンテスト(都市樹木の部)を開催しました。第1回よりも審査員の増員を図り、厳正に審査を行いました。20作品をアーバンフォレストマップに掲載しました。

第14期は、引き続き街路樹診断協会25周年記念誌の編集を進めます。ホームページのユーザー数が着実に増えていることから、広報戦略や新規開拓なども踏まえて、最新の診断技術や信頼の高い情報を継続的に発信していきます。

〔委員会・活動〕

- 定例会開催:7回(毎月1回オンライン開催)
- 会報(GAISHIN NEWS)の発行:第13号(6月1日)
- 第2回アーバンフォレスト写真コンテスト(都市樹木の部)開催(4月1日～6月30日)
- 各所への販促を兼ねた動画掲載企画:大阪・堺市での撮影を継続中
- 地域貢献活動・アーバンフォレスト写真コンテストリーフレット作成
- 日比谷公園ガーデニングショーで新しいパネル展示や写真コンテストリーフレットの配布(10月22日～10月30日)

街路樹診断士認定委員会

委員長:有賀 一郎 副委員長:山下 得男
委員:坂元 博明、三宮 洋、水野 優

街路樹診断士認定委員会の活動はコロナ禍のため、基本的にはオンライン(Zoom)およびメール会議での活動となりました。

第12回街路樹診断士新規認定試験の申請書は、手書き申請書を廃止し、デジタル入力式に変更し、資格厳格化に向けた取り組みの中、経歴などを街路樹診断士認定委員会にて厳しく審査しました。また、申請書だけではなく、講習や試験等の実施においても、資格厳格化に向けた取り組みを継続しました。

講習は本部主催で7月27日～8月31日に、オンライン研修サイトでオンデマンドによる講習受講と択一式試験受験を実施しました。実地講習・実地試験は、9月中に各支部にて実施しました。

また、街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会の立ち上げに協力しました。

〔委員会等〕

- 7月21日 新規認定申請書承認 (メール会議)
- 9月 2日 街路樹診断士認定委員会 第12回新規認定審査(オンライン開催)
- 11月10日 街路樹診断士認定委員会 第12回新規認定審査(オンライン開催)



2022年6月～12月

関東支部**【研修事業】**

9月28日(水) 第12回街路樹診断士新規認定試験実地講習・試験を実施
場 所：清澄庭園大正記念館、清澄公園

関西支部**【研修事業】**

第12回街路樹診断士新規認定試験の実地講習・試験を実施しました。

場 所：服部緑地公園

準 備：8月29日に現地で診断の講習用の候補木と試験用の候補木を選び、それぞれについてカルテを作成した。

講習・試験：9月6日に実施。受験者は3名であった。後日、清書したカルテ提出。支部内でカルテの審査を行い、若干の指摘事項はあったものの合格と判断し、本部に送付した。

九州支部**【役員会】**

6月21日(火) 第13期 第3回 幹事会(オンライン開催(Zoom))

9月29日(木) 第14期 第1回 幹事会(オンライン開催(Zoom))

【研修会】

7月25日(月)10:00～17:00 第13期 第1回 内部研修会

場 所：福岡県久留米市久留米シティプラザ

講 義：野外研修「シロアリ被害について」講師 沖濱 宗彦

座学研修「生態系サービス価値可視化の意義」講師 香川大学創造工学部助教 小宅 由似

11月2日(水)9:30～17:00 第14回 樹木危険度診断講習会(沖縄開催)

場 所：〔講義〕沖縄県体協スポーツ会館(沖縄県那覇市奥武山51-2)

〔野外研修〕奥武山公園

講 義：「沖縄における街路樹の倒伏・落枝の実態と対策」講師 国土交通省 国土技術政策総合研究所 飯塚 康雄

「街路樹診断概論」講師 山本 三郎(協会参与)

「九州での街路樹診断」講師 松本 幸生

野外研修：ピカス・レジストグラフでの機器調査、ロープワークでの樹上調査および樹上作業

【広報活動】

(公社)福岡県造園協会機関紙

リレー掲載「第28回 都市における樹木との共生」松本 雄介

本部**【常任理事会】**

第14期 第1回常任理事会

日 時：9月30日(金) 15:00～17:00

場 所：リアル・リモートハイブリット開催(協会会議室)

【理事会】

第13期 第3回理事会

日 時：7月19日(火) 15:00～17:00

場 所：リアル・リモートハイブリット開催(協会会議室)

第14期 第1回理事会

日 時：10月4日(火) 15:00～17:00

場 所：リアル・リモートハイブリット開催(協会会議室)

第14期 第2回理事会

日 時：10月24日(月) 13:30～14:30

場 所：TKP品川カンファレンスセンター(東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル)

【定時社員総会】

第14回 定時社員総会

日 時：10月24日(月) 15:00～17:00

場 所：TKP品川カンファレンスセンター(Zoomウェビナーにより同時配信)

【今後の予定】

- ・第3回理事会 2023年6月開催予定
- ・第2回常任理事会 2023年2月開催予定

新入会員紹介

● 関東支部：賛助会員 2

(賛助会員) エフティーエス株式会社 東京都中央区日本橋小舟町8-1 ヒューリック小舟町ビル7F

(賛助会員) 竹内 克巳(樹ごころ) 千葉県市川市

● 九州支部：正会員 2 賛助会員 1

(正会員) 株式会社ファイブ 福岡県福岡市博多区千代1-17-1 パピヨン24 6F

(正会員) 株式会社Y's ナーセリー 福岡県宮若市宮田5452

(賛助会員) 有限会社酒見緑化園 大分県玖珠郡九重町大字田野2415-259

● 会員数 128 (2022年11月現在)

正会員 85(関東支部 51、関西支部 11、九州支部 23)

団体会員 2

賛助会員(法人・個人含む) 40

賛助会員(海外) 1

■ 編集後記

今年に入り、各地でのイベント開催が緩和され、3年ぶりに日比谷公園ガーデニングショーへの出展を行いました。平日でも多くの方が「緑」を求めて来場されていました。アーバンフォレストの概念を広めていくために、アフターコロナを見据えた地域貢献事業として、12・13期で実施した写真コンテスト作品(並木・都市樹木)のリーフレットを作成して、一般の方々の理解をどこまで広げていけるのか、FACE TO FACEでお話をさせてもらいました。日本における街路樹の現状と診断技術は勿論のこと、想像以上に関心が高いという手応えを感じ、改めて緑陰の重要性を訴えていかなければならないと振り返ることができました。設立25周年を迎えるにあたり、記念誌の発刊も控えております。より一層、会員皆様のご協力をお願いできれば幸いです。

(萱森)

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11
一般社団法人 北九州緑化協会内
TEL・FAX:093-741-0022

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市大安區四維路176巷2號1樓
TEL:+886 02-2325-6911